

村合併60周年

村は、9月30日で合併60周年という記念すべき節目の年を迎えます。

ついでに、これまでの先人たちのご労苦に感謝するとともに、村の歴史を振り返り、また今後のさらなる村の発展を願って「合併60周年」の記念行事を、9月25日に実施する計画です。

行政区活動の支援

行政区においては、以前実施した行政区ワークショップ以降、自分たちの行政区の将来を考える動きや集会がそれぞれ徐々に活発化している動きが見られます。これら活動に対して、村は引き続き支援していきます。

「きこり」の再開

「いやしの宿いいたて」を2月8日で閉所し、3月24日より「きこり」を再開しました。村民が利用しやすい環境を目指します。今後は、研修棟・宿泊棟・コテージ棟を改修します。

商工業関連

現在、村内では50事業所が営業しています。

「飯館村暮らし検討委員会」より「商工業の再開や活性化に向けた事業の検討について」の答申が提出されました。それを受け、具体化のためのプロジェクトチームを設置しました。

村税

原子力災害に伴う平成28年度の市町村税の減免措置等については、平成27年度と同様の減免措置等が継続されるものと想定されます。国の税政措置の動向を見ながら村税の減免措置を講じてたいと考えています。

村内防犯対策

平成27年度に緊急雇用創出事業が終了したことに伴い、28年度からは民間にパトロール業務を委託して実施します。

なお、民間に委託しても、一人でも多くの村民を雇用できるように村として努力します。

ごみ処理対策

28年度は、帰村準備や準備宿泊で村民が村に戻る機会も増えることが予想され、ごみの量も増えることが想定されます。資源ごみ回収箱や村指定のごみ袋などを再整備し、ごみの収集環境を整えます。

健康・福祉・介護サービス

今年度は、「基本的な健康・福祉・介護サービス等」の再開に向け力を注いでいきます。

避難指示解除が平成29年3月までに見込まれることから、「基本的な健康・福祉・介護サービス等」の再開に向け取り組みます。準備宿泊の開始時期にもよりますが、平成28年9月を目前に「いいたてクリニック」再開の準備を進め、村民が安心できる医療環境の再整備に努めます。また、「いいたてクリニック」内に、お年寄りが集まれる「サロン」の設置準備も進め、帰村するお年寄りが生きがいを持ち、孤立することのないように整備します。

しあわせカフェの新設

借り上げ住宅に避難している方のコミュニケーションづくりと生き甲斐づくりを目的に開催している「しあわせカフェ」の新たな立ち上げを、福島市南部地区で予定しています。

現在は、福島市渡利と川俣町の2か所ですが、今後も参加者の皆さんの要望を聞きながら、避難中の村民を支援していきます。

放射線に関する健康対策

内部被ばく検査、甲状腺検査を「県民健康調査」とあわせ、県立医科大学の協力を得ながら今年度も実施します。

いいたて子育て支援センター

いいたて子育て支援センター すぐすく 一昨年、開所した「いいたて子育て支援センター すぐすく」を拠点として、きめ細かい子育て相談、乳幼児健診の実施、子育てイベントの開催、福島市の子育て世代の方々との交流、巡回事業等、当面の間は福島市での子育て支援を継続していきます。

農政関係

福島県営農再開支援事業の事業主体となる農業復興組合について、引き続き全村域での設立を目指します。また、自分の畑で作った野菜を食べることができるよう、野菜の摂取制限解除に向けて19行政区で実証栽培を行います。

除染関係

また、村内外での営農再開希望者に対する支援事業については、28年度についても、国、県の制度を活用してできるだけ有利な事業を実施します。

除染は、これまでも最優先課題として取り組んできました。

昨年4月から追加された「地力回復工事」については、一部29年度に延びる可能性があると考えています。これらの除染が確実に進められるよう、国と定期的に協議をしていきます。

また、宅地除染後に実施している、いわゆるホットスポット対応として実施する「局所対策工事」については、平成28年末までに完了するよう求めます。

モニタリングマップ作成事業

村内の道路、農地、宅地等の空間線量を測定し、その状況を村内地図に記載した「空間線量モニタリングマップ」を作成します。

村ホームページ及び村配布タブレットで見ることができま

個人線量計の貸し出し事業

一時帰村等を希望する村民に対し、村内の生活での被ばく線量を管理できるよう、新たに個人積算線量計を購入し、村民に貸与する事業に取り組みます。

学校教育・生涯学習関係

村内学校再開に向け、幼稚園・小・中学校が接続した特色ある教育を進めるため、中学校校舎の大規模改修を予定しています。

また、学校運営協議会を活用し、学校と家庭、地域の連携による学校運営を進めるとともに、土曜授業、学力の向上、キャリア教育、ふるさと学習など多様な学びについて充実を図っていきます。

公民館

新しい公民館が6月にも完了する見込みです。震災後、村内につくる初めての公共施設であり、村民が集い交流を深める中心施設となるので、新たなプログラム構築など、村復興のシンボルとなるような施設にしたいと考えています。



子どもたちの体験活動

小学6年生を対象とした「沖縄までの旅」、中学生を対象とした「未来への翼」事業を引き続き実施します。

避難中の最後の事業となることが見込まれますので、子どもたちには、全国の支援いただいた方々への感謝の心で、参加してほしいと願っています。

他にも、全国からの支援事業が予定されていますので、子どもたちには豊かな経験を積ませる絶好の機会ととらえ、村としても積極的に取り組みたいと考えています。

